

1

株式会社日立物流

各社の考え方

□ 算定を行う背景・目的

- サプライチェーンの各カテゴリ別CO2排出量を算定することで、重要となるカテゴリを把握し、具体的な削減策を検討するための基礎とする。

□ 算定結果の活用方法

- サプライチェーン全体について、今後の効果的な削減施策の検討や対策を講じるために活用する。
- ホームページやアニュアルレポートへの算定結果の公表等情報公開に活用する。

□ 算定のメリット

- サプライチェーン全体の中で、カテゴリ別の排出量が明確となり、改善対策の的が絞れる。
- 社外からの情報開示要求への対応が可能になる。

□ 社内の算定体制

- 本社のグリーンロジスティクス推進部にてデータを収集し算定した。

2

株式会社日立物流

各社の考え方

- | 各社の考え方 | |
|----------------------|---|
| □ サプライチェーン排出量の削減に向けて | <ul style="list-style-type: none">● カテゴリ1の排出量が全体の約7割を占めるため、具体的な削減手段を検討し、積極的な改善取り組みを進めていく。● 同様に、削減効果の大きいカテゴリに対しての削減取り組みを順次実施していく。 |
| □ サプライチェーン排出量算定の課題 | <ul style="list-style-type: none">● 算定範囲が広範囲であり、算定にかかる負荷が大きいため、効率的なデータ収集や算定方法の構築が課題として挙げられる。● 効果的なCO2削減のためには、各カテゴリの収集データの精度向上も必要である。 |
| □ その他(任意) | <ul style="list-style-type: none">● 今回の各カテゴリの算定に当たり、事業の内容から見て非該当と判断したカテゴリ8、9、10、14、15については除外した。 |

3

株式会社日立物流

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> ● 外注委託輸送を対象(トラック・鉄道・船舶) ● 包装材購入額 ● 物品・サービス購入額 ● 販売車両の調達台数 	<ul style="list-style-type: none"> ● トラック:未使用(燃費法で推計) ● 鉄道・船舶:輸送費当たりの原単位 ● 包装材、物品・サービス:購入金額当たりの原単位 ● 販売車両の調達:台数当たりの原単位
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備投資額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資本財価格当たりの原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気使用量、燃料使用量 	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料(種類別)・電力使用量当たりの原単位
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売車両の調達時輸送を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未使用(トンキロ法で推計)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> ● 種類別廃棄物排出量 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物種類別の排出原単位
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> ● 出張旅費金額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通区分別交通費支給額当たり排出原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤費支給額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通手段別原単位
カテゴリ8「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope1・2で計上 	—
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 非該当 	—
カテゴリ10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> ● 非該当 	—
カテゴリ11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売した自動車の走行を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未使用(燃費法で推計)

4

株式会社日立物流

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> ● 購入した梱包材の廃棄量 ● 販売した車両の廃棄量 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物種類別の排出原単位 ● 廃棄重量当たりの排出原単位
カテゴリ13「リース資産(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● リースした自動車の走行を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未使用(燃費法で推計)
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ● 非該当 	—
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> ● 非該当 	—
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> ● オプションカテゴリのため除外 	—

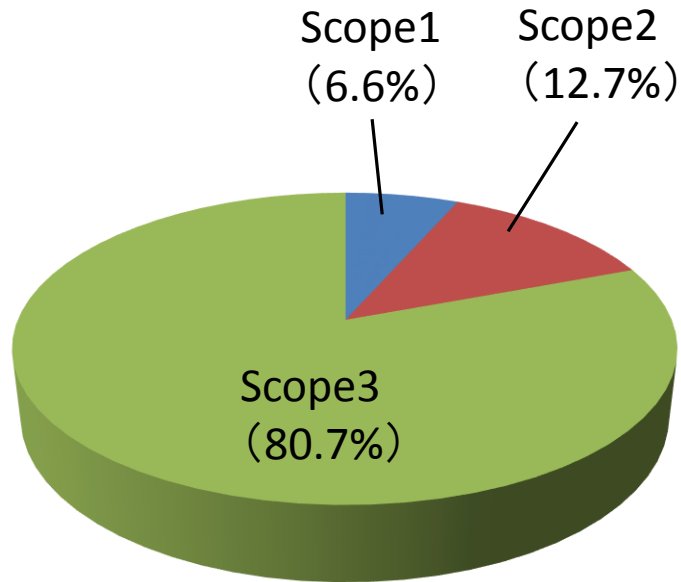
※ 原単位は、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver. 2.4)及びカーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースVer. 1.01(国内データ)を参照

5

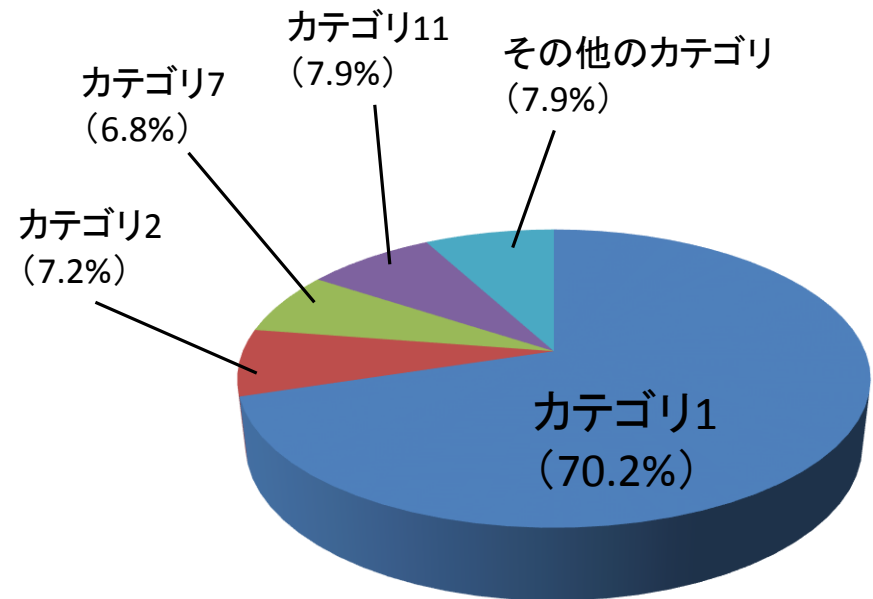
株式会社日立物流

算定結果

- サプライチェーン排出量(2016年度)



■ サプライチェーン全体の排出量



■ Scope3の内訳